



特集

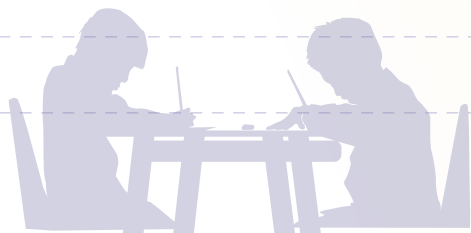
「小6 統一合判」2

中学入試レポート vol. 2

わが子にあった 中高一貫校を 見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

6年生になって、いよいよ本格的な受験勉強に取り組みはじめた受験生のみなさんは、夏休みを前にさまざまな課題を感じていることだろう。同時に保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、保護者の皆さんは、お子さんの生活リズムを良い形でサポートしてあげるのと同時に、お子さんにとってベストの受験校選択をしていくためにも、これから先、ぜひ多くの私学を見学に行ってほしい。とくに今年は、4年後の「2020年大学入試改革」とその先の未来を見据えて、“日本の学校教育を変える”可能性を秘めた教育改革が、いくつもの私学で進行している。「21世紀に生きる」わが子のために、そうした変化にも目を向けていただきたい。



首都圏模試センター

21世紀の教育改革の方向性をリードする 「私立中高一貫校の進化」に注目しよう！

今春2016年首都圏中学入試の幕開け時期の1月10日（日）に実施された、小5「統一合判」第5回〈最終回〉では、「いよいよスタートした2016年入試～これから1年間の受験準備と学校選びのために～」と題した「中学入試レポート」で、現在の小6のお子さんたちが直面する「2020年大学入試改革」と、今後の大学入試やその先に社会で求められる力を育てるための「21世紀型の」学力観・教育観について述べた。

続いて4月17日（日）に実施された新小6「統一合判」第1回の同レポートでは、「2016入試結果から探る、2017年首都圏中学入試展望」と題して、今春の中学入試のトピックと、それらの動向から読み取れる保護者の意識の変化、そして「2020年大学入試改革」に象徴される、今後の日本の教育の変化について言及した。この2回の模試を受験して同レポートをご覧いただいた保護者のなかには、こうした動きをすでに意識されている方も多いことだろう。

昨年2015年の首都圏中学入試の直前段階では、まだ「2020年大学入試改革」について言及するマスコミ媒体はほとんどなかった。しかし、1～2月の入試の直後、大学入試時期の終盤を迎える頃から、急速にその話題がクローズアップされることになった。

そして翌2016年に向けての1年間、教育と受験の世界では、この「2020年大学入試改革」をめぐる議論が最大の焦点となっていく。世界トップ100大学と肩を並べるための、「SGU（スーパーグローバル大学）」（トップ型13校・グローバル化けん引型24校）の指定や補助金制度、それにつながる「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」の指定、「日本語IB（国際バカロレア）プログラム」導入などの動きに象徴される“グローバル教育”推進の動きと、文部科学省も推進しようとする「アクティブラーニング（能動的学習）」に関する議論は、この1年間の教育をめぐる話題の中心であったといえるだろう。

注目される新たな「大学入試制度」導入の具体

的時期や手法については、大筋の予定は示されたものの、まだ論議の最中で、本稿を作成している6月上旬段階では明らかにされていない（この7月「統一合判」模試までには公表される見通し）。

しかし、何より現在の小学生にとって大事なことは、①「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、②「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」という新たなテストのあり方が明らかにされる以前に、いくつかの大学ではその改革の方向性を先取りして「すでに大学入試は変わりつつある」ということだ。とりわけ「4技能（読む・書く・話す・聞く）」の力を試すために、民間の検定資格試験を導入するという英語については、その方向性がほぼ確定し、すでに今春2016年の大学入試でも、そうした英語検定を自らの入試に導入する大学がいくつも現れている。

そして、現在の小6のお子さんが大学入試を迎える2023年には、新たな大学入試のあり方は、現段階よりかなり進んだものになる。

現在の「大学入試センター試験」に変わる2種類のテストが「CBT方式」での実施が検討され、それが「AI（人工知能）採点」される方向性や、従来の「教科型」に加えて、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価する「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせた出題がされること、そこでは「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を実現するための力を評価する」ことなども、現在よりかなり具体化～実現していることだろう。

そして何より、各大学の「ディプロマポリシー」、「カリキュラムポリシー」につながる「アドミッ



今年も本郷中高で6月5日（日）に開催された「東京私立男子中学校フェスタ」には多くの男子小学生の親子が訪れ、男子校生の発表やスポーツの試合を見学した。



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

ションポリシー」を反映した個別入試問題では、先の「思考力・判断力・表現力」に加えて、やはり文科省が示す「主体性・多様性・協働性」までを求める出題が課されることになる見通しだ。さらにそこでは、やはり文科省も改革の参考にしているブルームのタキシソミーに提示されている「①知識、②理解、③応用、④分析、⑤総合、⑥評価」の5～6段階にあたる「総合・評価」の力を問う出題や、欧米の伝統校や順天堂大学の医学部で出題されているような「創造的思考」までを問うユニークな出題がされることが予想できる。

言い換えれば、そうした個別入試問題では、各校のアドミッションポリシーを反映した「正解なき問題」「オープンエンドの問い」ともいえる問題が増えてくるだろう。

こうした「2020年大学入試改革」についての賛否や技術的・現実的な可否は、昨春2015年の大学入試シーズン直後からいっそう盛んにマスコミで伝えられ、教育関係者の間で論議されるようになった。

そして、今春2016年の中学受験生と保護者は、ほとんど1年間にわたって、そうした議論や報道の渦中で、志望校を検討してきた学年だった。そして来春2017年の中学入試に挑もうとしている現在の小6のお子さんと保護者は、その変化の真っ只中で、この先の大学入試の変化も具体的に見通しつつ、わが子の中高6年間の教育環境（受験～進学先）を探していく必要がある。

そういう保護者の教育と学校選びに関する情報収集のアンテナと見識が「わが子に合った中高一貫校を見つけるための」大きなポイントになるといってもよいだろう。

そして、何より現在の小学生と保護者にとっての本質的な問題は、目先の大学入試制度や入試形態の変更や時期にあるわけではない。

この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力や、これから先のAI（人工知能）の時代に必要とされる創造的思考力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試（＝日本の教育）で重視されてきた知識習得型の学



来春2017年入試では2月4日に「新思考力入試」を導入する大妻中野中、宮澤雅子校長は、3月28日に開催された恒例の合唱部定期演奏会でも力強く同校の未来への抱負を語った。

力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもある。

だからこそ、この日本の教育の変化の節目に、「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」ともいわれる新たな学びのスタイルや探究型のプログラムに、いま多くの私立中高一貫校が一斉に取り組み始めたと理解すべきだろう。そして、そうした私立中高一貫校のなかには、この方向性を早くからリードして、公立学校の数歩先の歩みを進めている「21世紀型教育」先進校がいくつもある。

そうした教育の新たなムーブメントも各ご家庭で意識しながら、保護者が大切にしている価値観に合った学校、そして何よりわが子が「生き生きと楽しく学べて、将来に向けた学力も身につけ、その過程でかけがいのない自分の価値と可能性に気づき、自己肯定感も高められる」ような私学を探していけるとよいだろう。

2017年にも「私立中入試の多様化」は進み、「思考・表現・発想」力を問う入試形態が増加。

一方、今春2016年の首都圏中学入試のシーズンに、新聞やTVなどのマスコミが最も注目したのが「私立中入試の多様化」の動きであった。

従来から主流であった国・算・社・理の4科目や国・算の2科目による入試に加え、今春の私立中学入試でとくに、新たな入試科目や入試形態を導入する動きが目立ったのである。

この動きは、すでに首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城）では23校となった公立中高一貫校の受験生（例年約1万8千名）が、少しでも私立

中の併願がしやすいようにという狙いで、いくつもの私立中が導入した「適性検査型入試」の増加がきっかけでもあった。

それは、今後の小学生（＝中学受験生）が当事者となる「2020年大学入試改革」に象徴される今後の日本の教育の変化に対応し、新たな大学入試と将来の社会で求められる力を育てたいと願う私立中高一貫校の教育姿勢を反映したものであった。さらにそれは、その入り口にあたる中学入試でも「思考力や表現力」を問いたいという私立中側の意図を反映したものであり、受験生・保護者へのメッセージでもあった。

そうしたことから、この1～2年で急速に、新たな入試形態が増加したと考えてよい。

その新たな入試形態・科目は、いわゆる「英語入試」、「思考力入試」、「記述・論述型入試」「総合（合科）型入試」「自己アピール（プレゼンテーション）入試」といったものだった。

今春2016年入試では、「64校が英語（選択）入試を実施」、「86校が適性検査（思考力・PISA）型入試を実施」と、昨年末の首都圏模試センターWebサイト掲載の「受験情報ブログ」でお伝えしたが、すでに来春2017年入試に向けては、●ページのコラムでもご紹介したように、さらに30校以上（6月10日現在調べ）が、新たな入試の導入を公表～検討している。

そして、こうした新たな入試形態で求められる力や小学生の資質は、先にご紹介した「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」、あるいは「探究型」授業、「学び合い」といった新たな学びのスタイル

とフィットする側面がある。

そうしたことに気づき、中学入試段階では荒削りや未完であっても、将来的には無限の可能性を持つ小学生の新たな資質や才能、自ら学び進む意志力などを持つ多様な子どもたちを迎え入れようと決意した先進的な私学が、自らの教育改革も進めようとするこの期に合わせて、これまでとは違った、新たなコンセプトの入試形態を新設するようになったのである。

今春2016年入試から新たな入試形態を導入した●**共立女子**（2/4のC日程入試に「算数＋合科型論述テスト」を導入）、●**品川女子学院**（2/4の第3回入試に「4科目・表現力総合型入試」を導入）、●**光塩女子学院**（従来は第2回入試に選択で含めていた「総合型入試」を2/1に第1回入試として独立した形で新設）などの人気校もその手ごたえを公表し、（共立女子と光塩女子学院では）次年度にはさらにウエイトを高める入試変更をすでに公表している。

さらには、今春2016年に「ポテンシャル入試」を新設した●**中村中や**、「リベラルアーツ入試」を新設した◎**宝仙学園**共学部理数インターのように、新たなコンセプトを掲げ、従来の中学受験生とは違った（スポーツや習い事などの）小学生時代の活動や様々な学習に打ち込んできた子どもたちの潜在的な資質や能力（＝ポテンシャル）を評価して受け入れようと意図する入試も登場し、そうした入試を新設する私学（千葉の◎**昭和学院**、神奈川の●**聖和学院**、東京の●**東京純心女子**など）が、来春に向けても少しずつ増えてきた。

こうした動きは、たとえば小6になってからなど、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一貫校への進学を志した小学生と保護者にとって、新たな進路の選択肢が増えたという意味で歓迎されるに違いない。

いずれにしても、こうした様々な動きのなかで、わが子にとっての最適な進路（学校）を選び抜くポイントとして、この「日本の教育が変わる」節目に、各私学がどのような教育をめざし、わが子が将来の社会でより良く生きていくための力を、どのように育ててくれるのかという点にしっかりと着目すべきだろう。

※本文・コラム文中の、●＝男子校、●＝女子校、◎＝共学校



私立の体験授業やクラブ体験などに参加する6月5日の東京聖学院男子中学校フェスタでの相談・体験ブース



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

**私学は絶えず進化し、成長する。
その教育の“現在”と“未来”のあり方を
保護者が自身の目で確かめたい！**

そして、そうした私学の教育が、各家庭の価値観や、保護者がわが子に望むことにフィットするかどうかは、やはり保護者が自分で各私学に足を運び、直接その学校の先生から話を聞き、校内の雰囲気や在校生の様子を自分の目で見て確かめるしかない。

そういう意味では、(わが子にとっての) 良い学校を探し出すには、「なるべく多くの学校に足を運ぶ」ということに尽きるだろう。

しかも現在では、そうして学校見学や説明会に出かける候補校を探すための予備情報は、各私学の公式Webサイトや、受験関係のWebサイトから容易に探し出せるようになっている。一度、じっくりと時間をかけて、いろいろな私立中高一貫校のWebサイトを見てみると、いまでは多くの私学で、かなり多様な学校生活の側面や、教育内容の深いところまで紹介されていることがわかるはずだ。

さらに最近では、従来から行われてきた説明会に加えて、オープン・キャンパス、体験授業、クラブ体験など、受験生自身が各私学の授業やクラブに参加することで、各私学の学校生活の雰囲気を肌で感じ、それを保護者も一緒に感じ取ることでできる機会が数多く用意されるようになっている。この1～2年の間に人気を高めている私学は、ほぼ例外なく、こうした「体験授業」の機会を充実させている学校だといってもよい。

しかもそれらの機会は、夏休み前の時期から各校で盛んに実施されていて、最近では、夏休み中にも多くの学校見学の機会が設けられるようになっている。そうした機会に、保護者が、あるいは親子で積極的に参加することで、多くの私学の特色や違いを感じ、その後の学校選びに生かせるようになる。

つまり、この7月以降、夏休みの期間にも、受験勉強のスケジュールを上手く調整して、親子で学校見学や体験授業など「私学に触れる機会」に出かけていただきたいのだ。



入試後まもなく3月4日に行われた立女子中の塾対象説明会で「算数十合科型論述テスト」の手こたえと来年の方針を語る児島博之校長。

こうした機会に参加し、過去の評判や固定観念にとらわれることなく、「私学のいま（現在）」と「私学の進化（未来）」を知り、最新の「私学の入試コンセプト（＝アドミッションポリシー）」や入試問題（＝そこで求められる力）」を知ることが、学校選びの貴重なヒントや、今後の学習の指針を得ることにもつながる。お子さんにとっても、これから先の受験勉強の励みになる。

こうして、お子さんが挑む来春2017年入試に向けて、できる限り「視野を広げ」、1校でも多くの私学に足を運んでいただくことで、きっとお子さんにとっての「最良の進路（＝進学先）」を探し出すことができるはずだ。

いよいよ6年生の夏休みの時期。 ここから大きくステップアップを！

そして、もうすぐ夏休み。この期間は、約40日間もまとまった勉強時間がとれる、中学受験生にとってはとても大切な時期。受験勉強をスタートさせた時期は違っても、それぞれの子もたちが、自分自身の学力的な成長のために、さまざまな課題を見つけて、それにじっくりと取り組んでいける貴重な時期でもある。

とくに入試を翌年に控えた6年生にとっては、この時期の過ごし方がその後の学力的な成長に大きく影響することから、「夏休みは受験の天王山」と言われてきた。

とくにこの夏休みの時期の過ごし方が6年生にとって大事なものは、この時期が、これまでお子さんが学んできた中学受験に必要なひと通りの知識や考え方の、ひとまずの完成期にあるからだ。

最新入試情報

2017年入試で新設～導入される新たな入試形態〈抜粋〉

来春2017年の入試でも加速する“私立中入試の多様化” 最新情報

●加速する入試の多様化。すでに30校以上が新たな入試を導入！

来春から新設・導入（追加）される新たな入試（6/10現在・首都圏模試センター調べ）は下記になっている。今後さらに増える可能性があるだけに注目しておきたい。

【新設】（6/10現在28校）

〈東京〉

- 足立学園 2/1 適性検査型入試
- 大妻中野 2/4 新思考力入試
- 大妻多摩 2/2 プレゼンテーション入試（帰国生・国際生対象）
2/4 4科または総合型入試
- 麹町学園女子 2/2 定員若干名 Active English入試（国・算基礎＋英語）
- 佼成学園女子 2/4 自己アピール入試
- 共立女子第二 2/1PM English 4-skills Test
- 女子聖学院 2/2・2/4日本語表現力入試
2/2 英語表現力入試
- 十文字 2/4 得意型（算or英）特待入試
- 東京家政学院 2/1PM・2/3AM KVA（国・算基礎学力テスト＋面接）入試
- 東京女子学園 2/1 定員20名 1科（英語リスニング・スピーキング）入試
- 東京純心女子 2/4 タラント発見入試
- 桐朋女子 2/2AM 論理的思考力&発想力入試
- 八雲学園 2/2PM 未来発見入試（1科（国・算・英から）と自己表現文）
- ◎桜美林 2/1 総合学力評価テスト
- ◎東洋大京北 2/4「哲学教育」思考・表現力入試
- ◎明大中野八王子 2/5PM B方式《4科総合型》入試（神奈川）
- カリタス女子 2/2PM 3科目型（読解・論述＋算数＋理科または英語）入試
- 聖セシリア女子 2/4 B方式（1科目（算または英）＋「読解・表現」）入試
- 清泉女学院 2/1PM 定員25名 2期（2科かグローバル（英語1科））入試



4月21日に行われた中村中の教育関係者対象説明会で、今春から導入した「ポテンシャル入試」の手ごたえと抱負を語る梅沢辰也前校長。

- 聖和学院 2/1・2・5 表現力・総合型入試、プレゼンテーション入試
- 聖園女学院 2/3PM 総合力テスト
- 桐蔭学園 2/4 AL（アクティブラーニング）入試
- 桐光学園 2/4 第3回B試験（「英語資格入試」と「T & M（talent and motivation）入試」）
- 〈千葉〉
- 聖徳大附属女子 12/1 定員5名 第一志望B入試（アビリティ）入試
- 和洋国府台 12/1 推薦 国・算基礎学力＋面接もしくは英語・グループワーク入試
1/24 第2回 2科（国・算）か3科（国・算・英）入試
- ◎市川 1/20 英語選択入試
- ◎昭和学院 12/6 第2回推薦「マイプレゼンテーション（作文・プレゼン・面接）入試」
1/22第2回一般「マイプレゼンテーション（作文・プレゼン・面接）入試」

【追加】（6/10現在3校）

- ◎宝仙学園理数インター 2/4 リベラルアーツ入試Ⅱ
- 聖学院 2/2 思考力ものづくり入試
- ◎かえつ有明 2/2 思考力入試Ⅱ

【日程・定員・表記などを変更】

- 共立女子 2/4→2/3 定員30→40名 C日程（算数＋合科型論述テスト）
- 光塩女子学院 2/1 定員約15→25名 第1回〈総合型〉入試（2科基礎と総合）

9月以降には、それらの力をベースに、いよいよ実戦的な問題演習に取り組み、本格的な入試学力の練成期～完成期に入っていく。この夏休みは、そのための助走期間としても大きな意味を持つ。

この7月初旬、すでにお子さんの夏休みの過し方の予定は固まっているだろうか。ふだんの小学校生活ではできない、学校外での体験の場や、秋の学校行事に向けての課題がある子どもたち

※本文・コラム文中の、●＝男子校、●＝女子校、◎＝共学校



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

これから夏休みや秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業など、受験生と保護者が「学校を知る（見る）」ことができる、さまざまな行事が行われる。各校で開催される文化祭、体育祭も、9月～11月にかけての時期がピークとなる。

わが子に合った学校を選び出すために、こういった学校見学の機会には、できるだけ数多く足を運んでいただきたい。それが「学校を選ぶ目」を確かめるのにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

●私学の「説明会」で話される4つの柱

1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」

～保護者の考えや期待と合うかどうか？

2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」

～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？

3. 「入試状況・出題傾向」

～どういう入試が行われるのか、またそこではどういう力が問われるのか？

4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」

～将来の進路に向けての指導内容・体制は。またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？そして4年後に迫る「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているかにも注目！

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、先に本文でも述べたような「2020年大学入試改革」への対応と、現在の子どもたちが社会に出る新たな時代（2027年以降）の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につけさせ、育てようとしているの



桐朋女子中では来春2017年から2月2日に記述型の「論理的思考力＆発想力入試」を新設。その意図を公式サイトや公開イベントで発信している。

かを確かめることだ。

合わせて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の「熱意」や「将来性」を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせ確認してかまわない。また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

1. 受付や先生の対応は親切か？（学校の体質や先生方の熱意を確認！）

2. 在校生の服装や言動は？（学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！）

3. 施設や設備の充実度は？（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）

4. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？（いざというときの安全性を確認！）

5. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？（利便性、安全性を確認！）

さらには21世紀型スキルといわれる「新たな時代に求められる力」を育てるために、各私学がどのような授業スタイルや教育プログラムを導入しているのにも注目したい。

もいることだろう。

入試のスタートを半年後に控えた6年生は、そうした受験勉強以外の課題にもチャレンジしながら

らも、一方では中学受験に挑んでいくための学力アップに取り組み、それらを上手に両立させていけるとよいだろう。

6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、トータルすると40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、大きな意味を持つ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、そうした力を定着させるためにまとまった時間を使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少し達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができると良いだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとよい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成

感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

一方で夏休みは、ふだんの学校生活ではできない自然体験や家族と一緒に過ごす時間が取れる大切な時期でもある。そうした体験はお子さんにとってよりフレッシュ効果も大きいので、うまく学習との切り替えとメリハリをつけられるよう親子で計画できるとよいだろう。

●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、それまでに学習してきたことを、自分で「使える力」として定着させることを狙いにしているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏の間に、いつ、どのような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日まで、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではのメリットのひとつと考えておきたい。

また、夏休みの講習は、多くの場合、問題演習が中心になるために、子どもたちは、自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確実なものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとういだろう。



神奈川県立南川高等学校附属中学校。来春はもう1校、同市に開校するだけに、人気動向が注目される。